

2017 年 11 月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 11 月は、「道北地域の景気は、持ち直している」としました。
- 道北地域の景気判断に関しては、6 月までは「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としていましたが、7 月に判断をワンランク切り上げ、「持ち直している」としました。それ以降、変更ありません。
- 最近の道北地域経済は、①公共投資の増加、②住宅投資の緩やかな持ち直し、③自動車の売行き堅調、④観光の持ち直し、⑤雇用状況の改善、といったプラス要因により持ち直しています。こうした基調に大きな変化はありません。先般の 9 月短観でも、企業の景況感を表す業況判断 DI は引き続き良好でしたし、今年度の設備投資計画も前年を上回る計画となっており、かつ前回調査比上方修正されていました。

■個人消費の動向

- 10 月の大型店売上高は、前年を若干下回る実績でした。昨年の 10 月と比較すると、今年の 10 月は土日祝の数が 1 日少なかったのですが、雨や雪の日は少なかったので、カレンダー要因や天候要因で大きく足を引っ張られたということはないと思います。消費の実勢に大きな変化はなく、弱含み横ばいの状態が続いていると思います。
- 新車登録台数は、9 月は前年比小幅のマイナスでしたが、10 月は再び増加しました。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、双方とも前年比プラスでした。軽自動車は除く軽自動車より伸び率は小さかったのですが、7 か月連続の増加となりました。除く軽自動車は当月の伸びはそこそこでしたが、検査不正の影響が出始めているとの声も聞かれています。これまで好調だった

た傾向に変化があるのかはもう少し様子を見たいと思います。

■観光の動向

- 観光は、10月も持ち直し傾向を維持しているとみています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年を上回りました。旭川空港では、国際線は乗り入れ便の減少から大幅マイナスとなっていますが、国内線は前年を上回っており（前年比+7.8%）、この結果、4空港全体の伸びも国内線だけでみると、前年比+6.8%となっています。
- ホテル・旅館宿泊者数は、小幅の前年割れでした。一方、旭川市内のホテルの客室稼働率は、高水準を持続しており、前年対比でも若干上回りました。
- 各地観光施設の入込は、博物館網走監獄と利尻・礼文フェリーが前年比2ケタの増加となるなど好調を持続したほか、旭山動物園も5か月ぶりに前年を上回りました。層雲峡やウトロ温泉も前年を上回りました。これに関しては、前年の10月が台風被害により客足が遠のいていたことや降雪など天候要因もあって伸び悩んだことの反動もあるかもしれません。もっとも、各地とも、足許はこれといったイベントや特別な事情があるわけでもなく、自然体で客足が伸びていると指摘しています。

■公共投資の動向

- 10月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額は、季節的にボリュームは少なくなっていますが、前年を若干上回りました。年度初来の累計でも前年度を上回っています。建設会社では、各社とも受注を多く抱え、人手不足と相まって、引続き繁忙な状態にあるようです。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、8月は前年を下回ったのですが、9月は持家と貸家がいずれも2ケタの伸びとなったため、全体でも前年を大きく上回りました。持家、貸家とも3か月連続で増加しており、9月の貸家は3割近い伸びでした。住宅着工は、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかな持ち直し基調にあるとみています。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、このところ高い伸びを続けています。9月 は前年比+26.9%でした。これで12か月連続の増加です。建設会社の方 に伺ったところ、旭川市内の大型店舗、医療福祉関係施設などの新築の動 きが続いているほか、農業関係の施設（倉庫や畜舎など）なども目立ってい るとのこと。これらは、民間設備投資の一部であり、最近、日銀短観な どの調査で設備投資に動意がみられてきていることとも符合します。そのほ か、学校など公共施設の耐震化に伴う建替えもみられているようです。

■雇用

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。9月の有 効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えま した。新規求人数も、すべての地区で前年を上回りました。

■今後のポイント

- これまで、道北の景気が持ち直していると言っても、今ひとつ本格的な回復 に至らない背景として、個人消費の弱さと設備投資の少なさを指摘してきま した。このうち、設備投資に関しては、短観結果でみる限り、上積みさせよ うとする動きが相応に出てきました。上述のとおり、民間の建築物も増加傾 向にあります。あとは、なかなか横ばい基調を抜け出せない個人消費に上向 きの動きが出てくることを期待したいと思います。

以 上